

参加者アンケート

分科会の感想

第1分科会 「住まい・暮らし」

- ・生活の中にどのように取り入れたら良いか、森林との繋がり方を学んだ。まずは人と人との繋がりを大切にしたいと思った。
- ・自分の好きなことを楽しんでやるのが一番で、その後からビジネスがついてくると学んだ。
- ・具体的な話でとても参考になった。
- ・現場（森林所有者、施業）で活動している方の話をもっと聞きたかった。
- ・非常に内容の濃い発表で、大変参考になった。
- ・実際の活動の様子、苦勞、問題を通じ、これからの課題を考えることができた。
- ・気持ちいいことを行っていれば企業も人もついてくる、やりたいことをやろうということに同感し、スギダラケクラブに入会したくなった。
- ・森林所有者である井上氏の話で、森づくりは信頼関係が一番大切だと思った。
- ・農林業を元気にするには、元気な若者が暮らせる環境づくりを進めていかなければと思った。
- ・不便を楽しむことが大切と思った。
- ・川上から川下まで、いろいろな視点からの話が聞けて良かった。
- ・各々の活動に素直にうなずけたが、日本の林業という大きな問題には小さく（取り組みが）、間に合わないとも感じた。

第2分科会 「教育・文化」

- ・話を聞いて、ワクワク・ドキドキした。自分がどのような木育・森のようちえんに関わっていきたいのか実践を通して学んでいきたい。
- ・共感する部分が多かった。
- ・社会企業家としての多田氏のアイデアがすばらしい。
- ・自然体で森のようちえんを運営している野村氏、次々と企画を事業化していく吉元氏、参考になった。
- ・秩父で森のようちえんをやっているが、自分たちがやっていることに更に自信がついた。
- ・森のようちえんの話は初めて聞いた。幼児期から森林や木材に触れること、そのために大人に対して教育することの重要性を感じた。
- ・孫をおもちゃ美術館によく連れていくが、自身の子どもの幼少期に森のようちえんがあったらぜひ入れたかった。もっと若いときにこうした活動に出会いたかった。木育の話が興味深かった。
- ・新しい発見があり、有意義だった。

第3分科会 「食」

- ・農業に従事する立場として勉強になった。
- ・森林に行って、「食する」という視点で動植物を見ることがなかったので、勉強になった。
- ・シカの話が興味深かった。シカを食べて生態系を守るという認識を広めたい。
- ・子どもを山菜採りに連れていけないという余裕のない教育環境についても考えていくべき。

第4分科会 「エネルギー」

- ・ボランティアだけでなくビジネスとして成り立っていることに驚いた。
- ・都会でペレット&薪ストーブが普及し、簡単に燃料調達できることに驚いた。

- ・薪まきネットに参加してみたい。
- ・最後まで飽きずに聴けた。森林と市民のつながりの仕組みを一緒に考えていきたい。
- ・都会の方の森林エネルギーへの関心の高さに驚いた。また、都会での薪・ペレットストーブの使用の難しさを知ることができた。
- ・田舎と都市が森林エネルギーで結ぶことができるよう頑張りたい。
- ・専門的に、ビジネスモデルとして突っ込んだ議論があり良かった。
- ・自然や環境問題に興味のない人へのアプローチを考えることが、今後の発展のカギを握ると感じた。
- ・若干、企業家に片寄った話だった。NGO や NPO などボランティアや市民との関係も話してほしかった。
- ・日本でもペレット・薪ストーブへの具体的取組が進んでいることを希望に感じる分科会だった。
- ・多くの質問があり、関心の高さがわかった。実践的内容であった。
- ・木質エネルギーの普及は重要であり、良い内容・構成だった。
- ・熱心な討議が行われ良かった。
- ・3. 11 以降に変化が生じているという全体でのコメントについて、まだこれからだろうと思ったが、プレゼンを聞いて、確かに変化が起きていると理解した。

第5分科会「女子会」

- ・他の活動を知ることができて、良いヒントを得た。
- ・林業のことを考える女子が集まって熱く語れたのは初めてで、新鮮で楽しかった。
- ・女子が集まるとパワーがすごい。話が脱線することがあるが、それも大事な雑談力で、そこからアイデアがうまれて、新しい森との繋がり方がわかった気がする。
- ・新しい出会いがあって良かった。
- ・さまざまなバックグラウンドの方が集まり、型にはまらないユニークな意見交換ができて面白かった。

全体会 ① の感想

- ・震災後、森が残ったという話が印象に残った。現地に行きたくなった。
- ・被災地が抱える状況が理解できた。森林を通した交流が大事だと感じた。
- ・吉里吉里国に興味深かった。
- ・巨大防潮堤 STOP、原発被災者の心のケアのための予算を、と訴えたい。
- ・ニュースなどでしか知らない被災地について、現地で活動している方の生の声を聞いて良かった。
- ・芳賀氏の話で、被災者にしか見えないもの、感じられないことを、ありのままの言葉で共有させてもらえた。自身の体験を次世代への貢献に展開させた芳賀氏のパワーに感動した。
- ・被災者にとっては大変な3年間だったと思うが、こちらにいと風化してしまうことに歯がゆさを感じた。
- ・防潮堤、防災緑地の建設により、海沿いの人々の暮らしや文化がなくなってしまうのではないかと。森があり、海があり、川があり…をふまえて森のありかた、つきあい方を考えていきたい。
- ・感銘を受けた。
- ・復興はまだのようだが、三人とも元気で活動していることがうれしい。
- ・大変参考になり、考えさせられる内容だった。
- ・福島森、岩手の海の現状は遠方で見聞きした情報とはだいぶ差があると感じた。実際に見てみないと、

と感じた。

- ・震災と森林の関係について、もう少し報告してほしかった。ただ、被災地を訪ねなければという思いをもった。
- ・質問の機会が欲しかった。
- ・時間が短かった。少なくともあと倍は欲しい。生の声を聴く機会は貴重なので。
- ・三人の活動がそれぞれ状況が異なる中で、ともに人材に言及していたことが印象的だった。それだけ、危機感があるのだと思わされた。時間がかかるが、問題意識を共有できるよう努力する取組が必要だと感じた。
- ・被災地の方々が自ら立ち上がり活動を行っているなら、離れた場所にいる我々の役目とは、活動を応援していくことがベストかと感じた。
- ・人は大きな困難に直面すると、知恵と力が出るものだったと思った。柳田国男の言葉が印象的だった。
- ・被災地を一括りにしてはいけない。地域ごとの対策があり、地域の人と外から来る人とが伝え合うこと、実際に見て感じる大切だと思った。
- ・三年は「あつという間」という言葉で、毎日が一つ一つの積み重ねだと感じた。
- ・厳しくつらい状況であっても前を向いて歩くことが大切だと思った。
- ・今なお続いている震災の後遺症に愕然としながらも、前に向かって頑張っている姿に感動した。
- ・山づくりが復興につながっていくことが素晴らしいと思った。
- ・もう少しじっくり聞きたかった。
- ・各々被害の内容や課題が違うなかで、様々な取り組みをしていることがよくわかった。
- ・前向きな活動に感銘を受けた。
- ・皆さんの心の強さ、生きようとする強さに感動した。
- ・話が詰め込み過ぎで、内容が中途半端に感じた。
- ・考えるより実践が大事
- ・現地の声を直接聞けて良かった。
- ・原体験に基づく活動の力には、根底に愛があると思った。
- ・震災に対する認識が甘かったと痛感した。
- ・各被災地の視点で現状をわかりやすく教えてもらい、復興に関する問題がよくわかった。
- ・復興は道半ばであり、つながって生きていこうと思った。
- ・「何かできることはないか」と考えることの問題点を改めて感じた。
- ・感謝から動き出した行動は人の心を打つ。
- ・未来に負の遺産を残したくない。
- ・福島のため頑張りたい。
- ・「聞いてください」だけの構成になっている。議論やボランティア的解決法は？
- ・語りかけるような報告・プレゼンが印象的だった。
- ・森づくりを軸に、人とどのように繋がるかを一番大事することが全ての活動に大切だと感じた。
- ・三年間現場で頑張った方々の言葉は心に響いた。
- ・関西に住んでいると身近に話を聞けることがないので、いい経験になった。
- ・山に生かされたという話が印象的だった。
- ・畠山氏の話は考えさせられるものが多かった。防潮堤の計画など。

全体会 ② の感想

- ・森林、これからのことなど、考えるきっかけになった。
- ・「自然との対話」が無理せずできる感性、大切なことだと思った。
- ・自然は答えてくれるという話がよかった。
- ・「森林と木材」論が面白かった。「覚悟の共有」は地域ごとで求めることは可能だが、国単位では難しいから、そうした「覚悟」のとり方をする議論の基礎資料をまとめていくのが森づくりフォーラムの使命だと思う。
- ・枝廣氏の考えをもっと聞きたかった。
- ・社会のペースダウンにより、森の時間の流れや自然からのメッセージを感じられるようにになりたい
- ・いろいろ気づかされる内容だった。
- ・現在の資本主義の破綻には同感。
- ・森に寄り添って生きていきたい。
- ・枝廣氏のことを初めて知り、新しい広がりを感じた。
- ・今の経済が幸せから離れていっていることに気付いた人が行動を起こしていることを知り、希望を感じた。
- ・人間と森がどのように向き合えばいいのか、ヒントをもらった。
- ・自分が感じていたことがまさにテーマとなっており、今後の活動の励みとなった。もっとざっくばらんな普段の話が聞けたらもっと楽しかったと思う。
- ・同じ想い、考えを持っている方と出逢えたようで嬉しかった。
- ・自然に対しての人との関わり方について考えさせられた。
- ・大変興味深く聞いた。
- ・計画を立てる、実行するだけではなく、その基盤に「寄り添う気持ち」が大切だと聞いて良かった。
- ・日常の不勉強を痛感させられた。
- ・自然の大切さとは、本当に生きるために必要なものは何かと自然と対話しながら考えなければならないと思った。人間は自然の中から外れすぎてしまったと思った。
- ・目の前の事象から様々なものを感じとる力が、生きる力、人や自然とつながる力になるのだと思った。
- ・面白かったが、二人の言い方がソフトすぎて、もっとはっきり言ったらと思った。
- ・内山氏の著書を読みたいと思った。
- ・これから先の話を聞いた気がする。
- ・自然から受け取れる感性を持って行動したいと思った。
- ・新しい考えを多く得ることができた。刺激的だった。このような考えが普通になってほしいと思う。
- ・効率という言葉が度々出たが、きく→効く→率いると考えることでペースができるのかと…。
- ・「多様な自らの世界に呼応する多様な私たち」の世界のイメージをもらった。
- ・違った目線での森林情報を聞いた。
- ・人々にどのように関心を向けてもらうか難しいと思った。
- ・精神論が多く難しく感じたが、各々の心の持ちよう、森に生かされていることを改めて感じた。
- ・内山氏の話「みずから」「おのずから」の違いは、今後日本人がマインドセットに向かうためのキーポイントになると思い感動した。

●「2014 森林と市民を結ぶ全国の集い in 東京」実行委員会

赤池 円 … 「私の森.jp」編集長
糸川 結花 … 林業女子会@東京
内山 節 … 実行委員長 NPO 法人森づくりフォーラム 代表理事
鹿住 貴之 … 認定 NPO 法人 JUON(樹恩)NETWORK 理事・事務局長
久保田繁男 … 西多摩自然フォーラム 代表
熊崎 惣太 … NPO 法人地球緑化センター 事務局長
後藤 章 … NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会 事務局次長
佐古田睦美 … 公益社団法人 国土緑化推進機構 森林づくり政策担当参与
多田 知子 … 一般社団法人 木づかいビジネス協議会 理事
松本 芳樹 … 林野庁 林業・木材産業情報分析官
水谷 伸吉 … 一般社団法人 モア・トゥリーズ 事務局長
原田 敏之 … NPO 法人 森づくりフォーラム 常務理事
松井 一郎 … NPO 法人 森づくりフォーラム 理事
中沢 和彦 … NPO 法人 森づくりフォーラム
宮本 至 … NPO 法人 森づくりフォーラム

● 協力

白石 則彦 … 東京大学 森林科学専攻 教授

● 運営スタッフ

岩下 広和 (JUON)・徳田 一絵 (JUON)・松本 貴久 (JUON)・飯塚 竜太 (JUON)・富井 久義 (JUON)
石山 恵子
清水 華子 (FIT)
青木 美奈子 (林業女子会)・廣田 茜 (林業女子会)・松本 彩 (林業女子会)

※ 報告書に記載した関係者の所属・肩書きなどは、2014 年 3 月 23 日時点のものです。

2014 森林と市民を結ぶ全国の集い in 東京 報告書

発行日 — 2014 年 5 月

編集・発行 — 「2014 森林と市民を結ぶ全国の集い in 東京」実行委員会

● 事務局 NPO 法人森づくりフォーラム

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-25-14 第一ライトビル 405 号室

TEL : 03-3868-9535 FAX : 03-3868-9536

編集担当 — 中沢 和彦・宮本 至・清水 華子・富井 久義

写真撮影 — 廣瀬 真也

レイアウト — 村田 央

無断転載を禁じます